

～「平成20・21年度 我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業」の報告～

地域で輝く学校

<研究課題（仙台市）>

地域や日本各地に伝わる伝統文化を尊重し、心豊かな児童生徒の育成を図る

学校教育において、伝統や文化を受け止め、継承・発展させるための教育の充実が求められています。本事業は、「学校教育において児童生徒が我が国に伝わる伝統や文化にふれる機会を充実することにより、我が国の伝統や文化への関心や理解を深めるとともに、それらを大切にしようとする態度を育て、豊かに生きる力をはぐくむことに資する。」ことを目指し、国立教育政策研究所より委嘱を受けて実施するものです。

平成20・21年度、実践モデル校に指定された三条中学校と八乙女中学校の実践の概要を紹介します。

仙台市立三条中学校

校長：伊藤 芳郎
全校生徒数：295名

心豊かに生き生きと行動できる生徒の育成

1 実践の概要

学区内には青葉神社、輪王寺等の名刹を始め、20有余の寺社が点在し、市の中心部ながら、緑豊かな自然の残る恵まれた環境にある。本校では、平成13年度より、心豊かな生徒の育成を目指して、地域の伝統文化の発掘・継承を通じた学習活動を選択教科に取り入れ、実践してきた。現在は、特別非常勤講師制度（社会人活用）を利用して「通町熊野神社神楽・篠笛」「箏曲演奏」「表千家流茶道」「北杜太鼓演奏」「YOSAKOI 演舞」「装道：着付」の6講座を開設し、伝統文化を尊重する生徒の育成を目指している。



【茶道・北杜太鼓の練習の様子】

2 平成20・21年度の取組

- (1) 選択授業における学習活動。
- (2) 文化祭における発表活動。
 - ・ステージ発表（通町熊野神社神楽・篠笛演舞、箏曲演奏、北杜太鼓演奏、YOSAKOI 演舞）
 - ・教室発表（表千家流茶道のお点前披露）
- (3) 地域や町内会の夏祭り・市民センター等での発表活動。
- (4) 教育課題発表会のデモンストレーション（北杜太鼓）。
- (5) 通町熊野神社での神楽の奉納。



3 成果と今後の展望

- (1) 各種行事での発表が、地域・保護者等から高い評価を得た。
- (2) 生徒の「大切に思う」「参加意欲」「興味・関心」「身近に感じている」等の項目において、互いに有意な関連が認められた。
- (3) 授業時間の確保を含む教育課程上の位置づけについて。



【民俗芸能での演舞】

仙台市立八乙女中学校

校長：志賀野 博
全校生徒数：634名

日本の伝統文化を大切にしている教育活動の実践 ～着物の着付けと礼法（選択教科）等の学習を通して～

1 実践の概要

八乙女中学校は、仙台市北東部に位置し、学区には多くの団地、マンション群を有する中規模校である。平成14年度より、地域との連携を図り地域の人材を生かした選択教科に取り組んできた。現在は、日本の伝統文化を学ぶ機会として、日本舞踊、箏においては、装道と礼法について、その内容の一層の充実を図り、日本の伝統文化を大切にしている心情と豊かな感性をもった生徒の育成を目指している。



【挨拶とお辞儀の学習】



【帯結びの学習】

2 平成20・21年度の取組

- (1) 2・3年生による異学年構成の選択教科に「着付けとマナー」のコースを設定した。（毎週木曜日3・4校時、受講生徒数19名）
- (2) 専門の知識と技術を有する特別非常勤講師を招き、着装及び礼法について理論から学び、体験を通して学習を進めた。
- (3) 9月の文化祭で、浴衣の着装と帯結び（文庫結びや花結び等）、蓋付き茶碗の作法をステージで発表した。
 - これまでの活動を通して、日本の伝統文化への関心を深め、継承していかうとする意識を高めることができた。更に、豊かな感性を育むとともに、日本の伝統文化に誇りをもつようになった。

3 成果と今後の展望

- (1) 礼法が現代のマナーにも通じていることを知るなど、先人の優れた知恵を学ぶことを通じて、日本文化の奥の深さに気づくことができた。
- (2) 平成24年度から選択授業がなくなることを受け、今後の継続方法について検討していく。

～「平成20・21年度 我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業」の報告～

地域で輝く学校

<研究課題（仙台市）>

地域や日本各地に伝わる伝統文化を尊重し、心豊かな児童生徒の育成を図る

学校教育において、伝統や文化を受け止め、継承・発展させるための教育の充実が求められています。本事業は、「学校教育において児童生徒が我が国に伝わる伝統や文化にふれる機会を充実することにより、我が国の伝統や文化への関心や理解を深めるとともに、それらを大切にしようとする態度を育て、豊かに生きる力をはぐくむことに資する。」ことを目指し、国立教育政策研究所より委嘱を受けて実施するものです。

平成20・21年度、実践モデル校に指定された三条中学校と八乙女中学校の実践の概要を紹介します。

仙台市立三条中学校

校長：伊藤 芳郎
全校生徒数：295名

心豊かに生き生きと行動できる生徒の育成

1 実践の概要

学区内には青葉神社、輪王寺等の名刹を始め、20有余の寺社が点在し、市の中心部ながら、緑豊かな自然の残る恵まれた環境にある。本校では、平成13年度より、心豊かな生徒の育成を目指して、地域の伝統文化の発掘・継承を通じた学習活動を選択教科に取り入れ、実践してきた。現在は、特別非常勤講師制度（社会人活用）を利用して「通町熊野神社神楽・篠笛」「箏曲演奏」「表千家流茶道」「北杜太鼓演奏」「YOSAKOI 演舞」「装道（和装の着装）」の6講座を開設し、伝統文化を尊重する生徒の育成を目指している。



【茶道・北杜太鼓の練習の様子】

2 平成20・21年度の取組

- 1) 選択授業における学習活動
- 2) 文化祭における発表活動
 - ・ステージ発表（通町熊野神社神楽・篠笛演奏、箏曲演奏、北杜太鼓演奏、YOSAKOI 演舞）
 - ・教室発表（表千家流茶道のお点前披露）
- 3) 地域や町内会の夏祭り・市民センター等での発表活動
- 4) 教育課題発表会のデモンストレーション（北杜太鼓）
- 5) 通町熊野神社での神楽の奉納



3 成果と今後の展望

- 1) 各種行事での発表が、地域・保護者等から高い評価を得た。
- 2) 生徒の「大切に思う」「参加意欲」「興味・関心」「身近に感じている」等の項目において、互いに有意な関連が認められた。
- 3) 授業時間の確保を含む教育課程上の位置付けについて。



【民俗芸能での演舞】

仙台市立八乙女中学校

校長：志賀野 博
全校生徒数：634名

日本の伝統文化を大切にしている教育活動の実践 ～着物の着付けと礼法（選択教科）等の学習を通して～

1 実践の概要

八乙女中学校は、仙台市北東部に位置し、学区には多くの団地、マンション群を有する中規模校である。平成14年度より、地域との連携を図り地域の人材を生かした選択教科に取り組んできた。現在は、日本の伝統文化を学ぶ機会として、これまで取り組んできた日本舞踊、箏曲のほかに、和装の着装や礼法を取り入れ、日本の伝統文化を大切にしている心情と豊かな感性をもった生徒の育成を目指している。



【あいさつとお辞儀の学習】



【帯結びの学習】

2 平成20・21年度の取組

- 1) 2・3年生による異学年構成の選択教科に「着付けとマナー」のコースを設定した。（毎週木曜日3・4校時、受講生徒数19名）
 - 2) 専門の知識と技術を有する特別非常勤講師を招き、着装及び礼法について理論から学び、体験を通して学習を進めた。
 - 3) 9月の文化祭で、浴衣の着装と帯結び（文庫結びや花結び等）、蓋付き茶碗の作法をステージで発表した。
- これまでの活動を通して、日本の伝統文化への関心を深め、継承していこうとする意識を高めることができた。さらに、豊かな感性をはぐくむとともに、日本の伝統文化に誇りをもつようになった。

3 成果と今後の展望

- 1) 礼法が現代のマナーにも通じていることを知るなど、先人の優れた知恵を学ぶことを通じて、日本文化の奥の深さに気付くことができた。
- 2) 今後の継続方法について検討していく。

